

Reader's VIEW

2018 Vol.1 へのご意見・ご感想

このコーナーでは、編集部へ寄せられた読者の先生方からのご意見をご紹介します。

*『VIEW21』教育委員会版のバックナンバーは「ベネッセ教育総合研究所」ウェブサイト (<http://berd.benesse.jp/>) でご覧いただけます。

◎大量退職・大量採用に伴う教員の著しい若年化の状況の中、教育力を維持するための特集の課題整理が、大変参考になりました。産業界での「プロダクト・アウト」から「マーケット・イン」へという考え方は、教育界においても教員養成段階だけでなく、採用や研修にもあてはめることができると感じました。(滋賀県)

◎特集のテーマである「学び続ける」教員を育てるために、大学の教員養成プログラムがとても重要だと思いました。教員になってもすぐに辞めてしまう人がいる中で、本当に教員になりたいのか、なぜ教員になりたいのかと、本人が教員としての適性を知る体験が必要だと考えます。その意味で、事例1の山口県が実施している大学1・2年生の学校体験制度に、深い意義を感じました。(茨城県)

◎社会の変化とは反対に、従来の考え方に凝り固まっているのは、学校や教員だと思います。本人が主体的に学び続けることが理想ですが、学校現場が教員個々に応じて、意図的、計画的に指導力を向上させる必要があるでしょう。特集で紹介された埼玉県さいたま市のように、主体性や同僚性を高めるシステムの構築は有効だと思います。(大阪府)

◎特集事例2の埼玉県さいたま市のように、教育委員会は指導よりもサポートの面を強くするとよいと感じました。学校が取り組みたいことを明確にし、それを教員間で共有し、短時間で労少なく研修を推進するためのサポートです。それがまさに働き方改革にもつながると感じました。(新潟県)

◎特集の「学び続ける」教員の育成では、同時に業務の見直しも行わないと、教員の負担は増すばかりです。事例3の東京都千代田区立麹町中学校の取り組みは、目的と優先順位を考えた上での取り組み例で、その行動力と、守ってもらえるという安心感が、教員の学び続ける姿につながっていると感じました。(岐阜県)

◎新連載「Leader's VIEW」は参考になりました。「地域の子どもは地域が育てる」という理念を掲げながらも、問題行動や貧困、虐待などは学校が対応せざるをえないという実態があります。少年の犯罪数が低下した取り組み、乳幼児から高校までの縦の連携について、さらに具体的に内容を知りたいと思いました。(滋賀県)

◎連載「データで教育を読む」で、学校教育に対する保護者の満足度上昇について納得しました。学校だよりやHPなどによる情報提供、学校開放日や各種行事などで、子どもたちの成長を直接見られる機会を積み重ねた結果なのだと思います。(秋田県)

◎連載「学力向上へのステップ」で紹介された、三重県いなべ市の取り組みが印象に残りました。ICTは機器を使いこなすまでに時間や手間がかかり、学力向上につながらないのではと危惧していました。しかし、教育委員会やベネッセのサポートサービスを機能させることで、成功へとつながれるのだと納得しました。(福島県)

◎働き方改革については、まだ自分の中で逡巡しています。「学び続ける教員」との矛盾や、小学校英語・プログラミング教育・道徳等による勤務時間超過が心配なのです。ただ、今回の新連載「創造的働き方改革のすすめ」にあった出退勤時刻の記録は簡単にできることで、意識化させることは可能だと思いました。(北海道)

◎連載「近未来展望」の認定特定非営利活動法人グリーンバレー・大南信也理事長の「余白の部分を持ち、新しい取り組みに挑戦していただきたい」という言葉に共感しました。教員が喫緊の教育課題への対応で精いっぱいでは、教員に新たな挑戦意欲が湧かないのは当然です。だからこそ、心の余裕を持たせられるよう、管理職が先生方を守る盾とならなければならないと思います。(島根県)

編集後記

特集で英語4技能教育の先進事例を取材し、自分が習った頃からの大きな変化を目のあたりにしました。学校の先生は、自分が習った形の授業以外は教えるにいと聞きますが、先進事例の先生はご自分が体験しなかった英語の授業に果敢に挑戦され、それを形にされていました。新しい授業は大変だとかやかにお話しされる中に、先生方の充実感を感じました。日本の未来を担う子どもたちが英語で困らないようにするため、これからも先生方の挑戦を応援していきます。(広瀬)

VIEW21 教育委員会版 2018 Vol.2 2018年9月21日発行/通巻第14号

発行人 山崎昌樹
 編集人 春名啓紀
 発行所 (株)ベネッセコーポレーション
 ベネッセ教育総合研究所
 印刷製本 (株)ムレコムニケーションズ
 編集協力 (有)ベンダコ
 執筆協力 中丸 満、二宮良太
 撮影協力 荒川 潤、川上一生、岸 隆子、
 筒井岳彦、ヤマグチイキ

◎お問い合わせ先
 フリーダイヤル 0120-350455
 〒700-8686
 岡山市北区南方3-7-17